

[短 報]

## ユゴイの新産地と採捕場所の特色

北 川 捷 康\*

### New Distribution and its Feature of Dark-margined Flagtail, *Kuhlia marginata* (Cuvier, 1829) in Shizuoka Prefecture, Japan

Katsuyasu KITAGAWA\*

#### はじめに

ユゴイ *Kuhlia marginata* (Cuvier, 1829) は、国内では黒潮の影響を受ける地域に分布し、国外では西太平洋からポリネシアまでの熱帯域に広く分布するユゴイ科ユゴイ属の魚類である (瀬能, 2002)。

筆者は、魚食性鳥類の餌となる魚類の生息状況の調査および静岡県が行ったカワウの胃内容物調査において見られた河川によるアユの比率の違いの要因を探る目的等で複数河川の調査を行った。これらの調査の過程で2008～2010年にかけてユゴイ8個体を採捕した。ユゴイは静岡県レッドデータブックにおいて要注目種の部会注目種 (N-) に指定されており、静岡県内では西部地域の都田川、新川、天竜川、弁財天川、中部地域の富士川、伊豆地域の西浦河内川、古宇川、井田大川、八木沢川、青野川、大浜川、稲生沢川、河津川、大川川、の計14河川で確認されている (板井, 1982; 板井ほか, 2004; 荒尾ほか, 2008; 北川, 2008; 環境アセスメントセンター, 2009)。

今回、未報告の河川からの記録を得たことおよび採捕場所の河川状況の共通性が認められたので併せて報告する。

#### 採捕日・場所・方法

採捕は、2008年9～11月、2009年9月、2010年10月に行なった。ユゴイを採捕した河川は天竜川、太田川、安倍川、藁科川の4河川である。採捕した地点は、天竜川では浜松市東区鶴見町、同浜北区中瀬、磐田市竜洋中島の3地点、太田川では周智郡森町市場の1地点、安倍川では静岡市葵区田町の1地点、藁科川では静岡市葵区山崎の1地点、合計6地点である。なお、採捕日および場所の詳細は表1に示す。

採捕方法は、投網 (2分目: 6mm) を使用し、努力量は各地点10投である。なお、採捕は静岡県内水面漁業調整規則に従い、特別採捕許可を得たうえで行なった。

#### 結 果

採捕した8個体のデータは表1のとおりである。採捕したユゴイの写真を図1～4に示す。同日・同一の調査地で2個体採捕したのは天竜川の浜松市東区鶴見町および同市浜北区中瀬の2カ所であり、他では1個体であった。サイズは全長20mm台が2個体、同30mm台が3個体、同40mm台が3個体であり、いずれも当年魚と思われた。なお、浜松市東区鶴見町の全長27mmおよび29mmの個体の体長はそれぞれ23mmおよび24mmであった。体長15～20mm

\* 静岡県渡り鳥研究会, 434-0016 静岡県浜松市浜北区根堅2269-10  
Study Group of Migratory Birds in Shizuoka Prefecture, 2269-10, Negata Hamakita-ku, Hamamatsu, Shizuoka, 434-0016 Japan

表1 ユゴイの採捕データ

河川名	場所(km)	個体数	全長(mm)	体長(mm)	採捕環境	採捕日
天竜川	浜松市東区鶴見町 (6.5)	2	27, 29	23, 24	橋脚周辺	2008年11月6日
	磐田市竜洋中島 (6.7)	1	32	27	淵岸際	2009年9月26日
	浜松市浜北区中瀬(19.1)	2	34, 48	29, 40	淵岸際	2008年11月5日
太田川	周智郡森町市場 (15.4)	1	47	39	淵岸際	2010年10月29日
安倍川	静岡市葵区田町 (5.0)	1	45		淵岸際	2008年10月22日
藁科川	静岡市葵区山崎 (6.0)	1	38		淵岸際	2008年9月11日

注) 場所の後の( )は河口からの距離を示す。藁科川は安倍川河口からの距離を示す。距離は、天竜川は「天竜川管内図」、太田川は「太田川全体計画」、安倍川・藁科川は「空から見た安倍川」による。



図1 藁科川で採捕したユゴイ (全長: 38mm)  
2008年9月11日



図2 安倍川で採捕したユゴイ (全長: 45mm)  
2008年10月22日



図3 天竜川鶴見町で採捕したユゴイ 全長27mm個体(上), 同29mm個体(下),  
2008年11月06日



図4 太田川で採捕したユゴイ (全長: 47mm)  
2010年10月29日

mの稚魚は、5～9月に碎波帯やタイドプールに普通に見られ(木下, 1988), 河川には全長25mmくらいで遡上する(瀬能, 2001)。上記鶴見町採捕の体長・全長共に20mm台の個体が、すでに河口から6.5kmの中流域にまで遡上していることになる。

採捕地の河口からの距離は、安倍川・藁科川では安倍川河口から5.0km～6.0kmで平均5.5km, 天竜川では6.5km～19.1kmで平均11.35km, 太田川では15.4kmであった。

採捕環境については、各採捕地に共通する特色が見られた。天竜川の鶴見町を除く5例は、平瀬が段

差を受けて早瀬になり、早瀬直下流の淵岸際の緩流部(水深約1～1.5m)であった。鶴見町の例は、本流に接した新幹線橋脚周囲に形成された淵の緩流部(水深約1～1.5m)であった。この橋脚の周囲の深みは、前日の中瀬における採捕場所の印象からこのようなどころにも生息しているかもしれないと思いつつ調べたところ、採捕されたものである。全採捕地に共通するのは「本流に接した淵岸際の緩流部(水深約1～1.5m)」と言える。なお、各河川とも河口部でも調査を行っているが、本種の採捕はなかった。

## 考 察

静岡県内の既知の採捕記録は、2003年以前では「県内の川では河口近くで見つかる」（板井ほか、2004）など、県内内陸部採捕の報告例はなかった。その後も2004年の1例（北川、2008）を除いてすべて河口付近であったが、本調査ではすべて内陸部の中流域で記録された。本種はもともと汽水域に依存する種ではなく、溪流部の淵の中層や表層を活発に遊泳（瀬能、2001）する習性から、今回の内陸部の採捕は異例なことではないと考えられる。既知の記録が河口付近に多かったことについては、回遊魚なので下流の方が個体数が多く、確認の機会が多かったからと考えられる。

今回のすべての採捕地に共通した環境が本流に接した淵岸際の緩流部（水深約1～1.5m）であったことから、静岡県内において中流域で調査する場合、そのような環境に留意するべきである。

今回3河川1支流で8個体を採捕した。各河川の調査開始は天竜川が2000年、安倍川が2006年、太田川が2008年で、各河川とも2010年まで毎年ほぼ同様のポイント、同様の期間、同様の方法で調査を実施してきた。にもかかわらず、採捕は天竜川では2008～2009年、安倍川・藁科川では2009年、太田川では2010年と、2008～2010年に集中している。地球規模の温暖化が言われている状況から、南方系のユゴイの採捕は、今後増えるのではないかと考えられる。

## 謝 辞

調査にご理解をくださった天竜川漁業協同組合、安倍藁科川漁業協同組合、太田川漁業協同組合、県水産資源室栽培スタッフ、天竜川の流域区分に関する資料をいただいた朝倉俊治氏（環境アセスメントセンター）、太田川調査地の河口からの距離を教えていただいた静岡県袋井土木事務所の皆様にお礼申し上げます。

## 引用文献

荒尾一樹・大和 剛・石田 淳（2008）静岡県の河口域で採集された魚類。豊橋自然史博物館研究報告，18号，p.29-32。  
板井隆彦（1982）静岡県の淡水魚類，第一法規，

東京，89p.

板井隆彦・小林正明・金川直幸・安藤晴康（2004）ユゴイ。静岡県自然環境調査委員会編，まもりたいたい静岡県の野生生物 - 県版レッドデータブック - 動物編，羽衣出版，静岡，p.156。  
環境アセスメントセンター（2009）水生生物生息状況等調査業務委託（河津川）報告書。静岡県県民部環境局生活環境室，静岡，p.35。  
木下 泉（1988）ユゴイ。沖山宗雄編：日本産稚魚図鑑，東海大学出版会，東京，p.423-424。  
北川捷康（2008）天竜川下流部の魚類 その2， - 気になる2種 -。遠州の自然，31号，p.38。  
国土交通省静岡河川事務所（2006）空から見た安倍川。静岡，p.7-17。  
国土交通省浜松河川国道事務所（2006）天竜川管内図（下流）。静岡。  
水情報国土管理センター（2007）河川環境データベース（河川水辺の国勢調査），[http://www3.river.go.jp/download/chouhyou/2002/data/A/9-85-505-001-000-1\\_13608500000070/A0000Y01.xls](http://www3.river.go.jp/download/chouhyou/2002/data/A/9-85-505-001-000-1_13608500000070/A0000Y01.xls)，参照2010.10.28。  
瀬能 宏（2001）ユゴイ。川那部浩哉・水野信彦・細谷和海編：日本の淡水魚 改訂版，山と溪谷社，東京，p.492。  
静岡県袋井土木事務所（1997）太田川断面図。太田川全体計画，静岡。